

佳作

ふしぎな赤いみ

鹿児島県いちき串木野市立串木野小学校二年 入江 桜愛

そのふしぎな赤いみをはじめて見たのは、一年生のときでした。通学路をあるいていると、あきちに赤いみがたくさんなっている草を見つけました。草は、とげとげがあるのでようちゅういです。みは、あざやかな赤色で、何だかどくが、入っていそうです。「ふんでみようかな。雨ぐつだから、どくでも大じょうぶ」。ふんでみると、赤いしるがたくさん出てきました。どこかでかいだこがあるような、あまずっぱいにおいがします。どくかもしれないけれど、何だかすごく気になります。わたしは、みをいくつかとって、もって帰りました。おかあさんに見せていいました。

「赤いみ、見つけた。どくがあるのかな。」

「食べてごらん。」

おかあさんは、にやにやとあやしい顔をして、し

ようげきの一言を言いました。わたしは、
「ぜったいどくがあるでしょう。」

と言いました。おかあさんは、

「子どものころに、よく食べていたから大じょうぶ。ちは、あらそえないね。」

と、よくわからないことをいいながら、どくみをしてくれました。わたしも、ドキドキしながら、口に入れてみました。

「おいしい。あまずっぱい。いちごのあじにいているね。」

わたしは、このふしぎな赤いみが大すきになって、おかあさんとしょくぶつ図かんでしらべました。このふしぎな赤いみの正体は、ナワシロイチゴというのいちごだとわかりました。友だちにも教えると、のいちごは、あつという間になくなりました。あきがきて、ふゆになると、とうとういちごの草は、かれてなくなりました。

「ちよつと食べすぎちゃったかな。らい年は、もう食べられないのかな。」

そう思って、切ない気もちになりました。

わたしは、二年生になりました。五月になると、あのとげとげのはっぱが、たくさん出てきました。

うれしくなって、かんさつをまい日つづけました。すると、ピンクのかわいい花が、いっばいさきました。

六月になると、つやつやの赤いみになりました。

もう、どくはないとわかってるから、ほう石のルビーみたいにきれいに見えました。わたしは、のいちごを一つ食べてみました。

「今年ののいちごも、やっぱり、あまずっぱくておいしい。」

わたしは、のいちごをしらべて、気づいたことがあります。それは、のいちごなどの山のくだものは、鳥やどうぶつたちの大切な食べものだということです。だから、一人じめしないで、少しだけおすそ分けをもらう気もちで、とることにしました。また、らい年も、さらい年も、おとなになっても、かわらないのいちごが、食べられるのをたのしみにしています。